



又玄齋南可撰

畫工立祥

# 江戸方角名所杖初編

此書ハ大江戸の東西南北十二支の方向を分け地理を  
 記し古跡の来歴を説き名所の景を畫き問を  
 考ふる方角を知り居るが如く名所を知る實は獨案内  
 の名所杖且書画共ふ手本を兼る重宝の書也

## 江戸方角名所杖

夫武陽ハ封域廣大一々名勝

佳境乃繁き杖擧子以中のありに

公侯の邸宅薨をなぐ信義乃士

民袖を連袂くは車轍子の履

く一々壁をへんりりし此小冊子

名不舊跡を詳しするに足らん





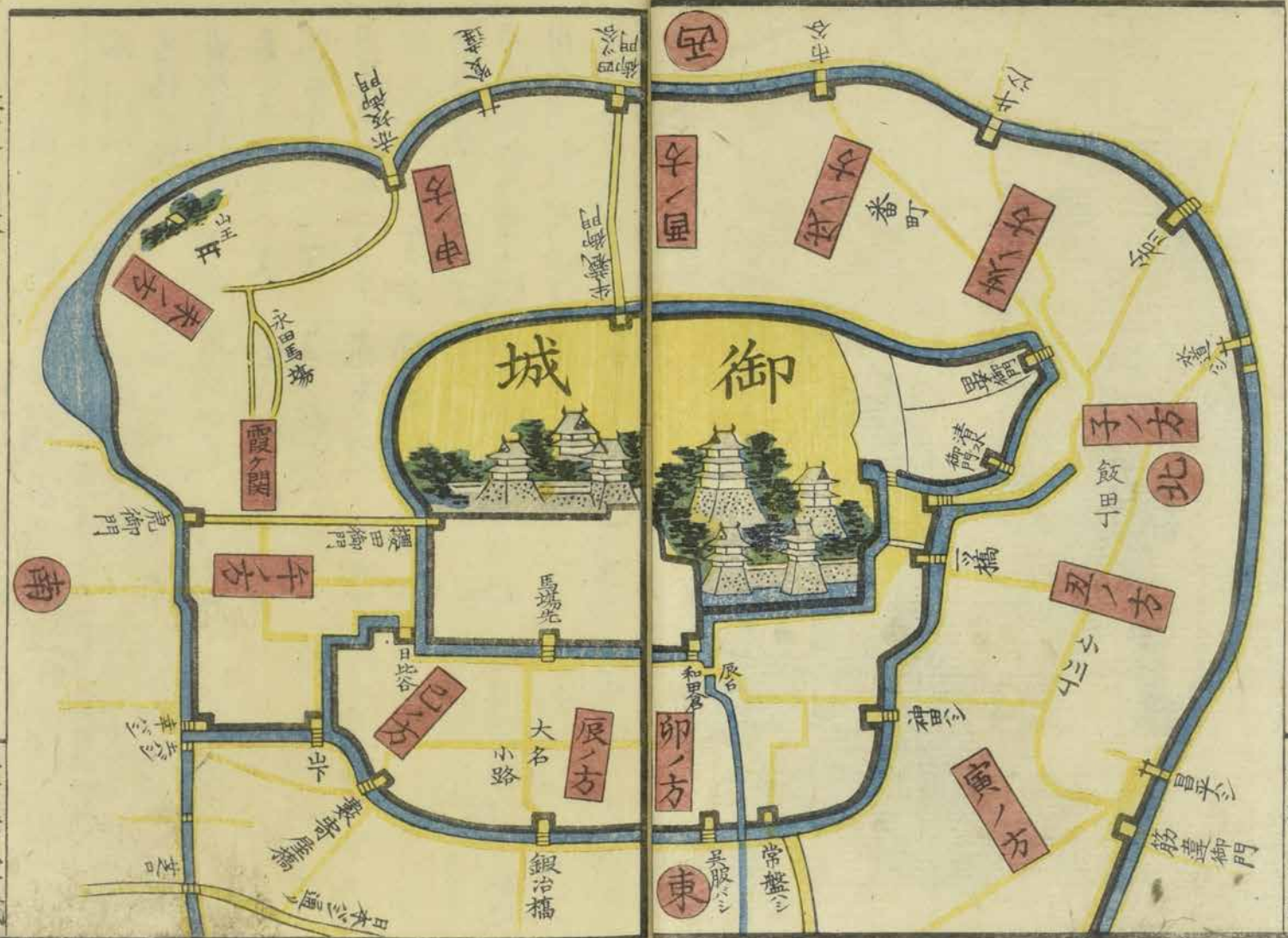
とも 稚臺 をこ なご 水子 てあつ 習上 えい 江戸 ちう 方角子 かく  
 心 しん 神 かみ 社 がら 佛 かく 閣 な の 辨 あ あ ま 任 か  
 せ こ 愛 らん ま れき 来 きう 歴 く の 九 いち 年 ちゆう 一 ちゆう 毛 ちゆう 城  
 記 し も の こ

又玄高述南回

正言方角子

正言方角子





江戸時代文

江戸時代文

宝集堂藏

○日本橋より諸方の道法

品川へ	二里	沼込白土	一里	美乳山	一り半
高橋文治	一り八丁	富士へ	一り半	六百羅漢	一り半
麻布若橋	一り余	護國寺へ	一り半	龜戸矢形	一り余
美山若光	二里	雜司屋	一り半	柳橋妙慶	一里
深谷金五	二里	王子稲荷	二里	吾妻寺	一り十丁
目黒不動	二り半	飛鳥山	一り半	酒橋毎之	一り十丁
池上へ	二り余	深井へ	一り半	隅田川へ	一り半
市谷八幡	一り六丁	東門外へ	一り余	三園稲荷	一り半
目赤不動	一り十丁	浅州稲荷	一り余	美橋稲荷	一り半
目白不動	一り七丁	猿若所へ	一り半	美岡へ	一り余
高田馬場	一り半	新吉原へ	一り半	鶴の巻	一り余



江戸城外

江戸城へ入る百三代  
後花園院の御宇

長祿元年右田村  
佐々木重俊天正十八年  
江戸内家室城

ふあり千代田  
と清橋地とある  
弟代不易の基とある

江戸方角

文江の武蔵の  
隅を信長使田

此の隅平の今や神社の隅に  
建つき雑とまき畏地由は  
義興の名のまたりそ  
家よ入る里民の住  
樂を焼くをうり





# 東者和洞院

中央とくまづ東の方ふあたる所の  
地名をいふあり和洞院の所の名あり  
呉服橋常盤橋井田橋あふらる  
見洲あり辰のの松よあり

# 八代洲河岸

八代洲河岸の和洞院の所先づつありの  
内場橋をいふ昔長の江吳國人名成  
ヤンヨウスとの入りの米船との色とて名  
後を下さるるをいふ名づくといふ



## 呉服橋

あつらひむくの後発橋といひるよう  
橋より商家形とて是呉服丁なるはつり  
川の西に石橋(ある南の大工町まはり丁橋也  
丁上林丁あり)東の方日本橋をいふあり

# 日本橋

日本橋の南少へか  
橋へ長サ廿八石九尺

の中央ありして港方の石のりば橋と先とま  
魚市並物市諸町より入船二六舟中  
健來の人終るこなく幾み兼中冠す  
大船まゆりて兼の東海屋の文政あり





杉森稲荷  
右圖

# 杉森稲荷

此の稲荷の本多くありより名とよ  
申年申田原表の軍勢を申  
門傳代のと死の神を移りて福利  
を傳代町より町の裏より申あり

# 遣渡

遣の渡ハ茅場丁小綱丁  
渡りて一々の葉のまると

播西のハ播西のハおら播の川よりむ  
永兼年別源義家お妻お伝代のもたの  
雨と渡りて風波暴れ死してさう  
遣一伝と神代播げて渡ると云



右 遣渡

# 霊叢清

町ありとのハ西の茅場町東の永代播  
昔雄登吳岸和為海汀をつた立一と  
道立一吳岸ちとのハ傳の名と寺ハ後  
深川へ移りて海汀町と名を給て十八町あり

# 吳岸清



# 新田嶋

大池定りある遣渡の  
伝代志と海汀ありと

昌平の化の用け南号一又瀬橋毎天の  
東の方の平井新田とのあり右名々の丁あり  
町とのハ明和の江波除新と名と給て田原人  
の多ふありと平井新田と名を給り定りて



新田 右 嶋





永代橋

# 永代

永代の小綱所若橋彩橋  
より大川を隔て町敷ありと

源川といふ夏水橋あり長廿八丁是と永  
代橋といふ夏源川中丁海橋をそ夏新田  
砂村のり少大橋小名永川より江中水  
みゆる浦の芝浦より橋の海あり

# 八幡之拾之間堂

源川の惣法界のて福岡八幡といふ寛永  
元年法隆寺別当八月十二日と二十三日を  
八月福屋小町と京大仏と二十三日をそと  
射巻と号す人ばあそく年一夫とあま



八幡之拾之間堂

海橋長天



# 例儀辨天

ありそより用基如皇院隆光大僧正あり  
元禄十一年死立別当を増後院といふ  
海岸の眺屋絶と糸の眺めと源生の  
とより波うみ諸人元満と

# 源川靈巖寺

源川  
浄土宗  
寺岸

山といふ十八檀林の寺一あり用山檀蓮山  
雄峯上人吳岸和尚の明替二番四派の後吳  
岸徳介といふ後つ地西永代八幡の後山あり  
寺橋よりいへ海橋丁平野丁のありあり



源川  
寺岸

南本所  
小名木  
川



南本所小名木

本所又南水の号あり此川は  
間源川を流すの川筋を末の

中川の石橋所あり万年橋を流す  
む一筋の川を流すあり

# 六百羅漢

夫恩正羅漢も因正羅漢和尙も  
象先和尚の勤作を崇拝する方丈末達  
正羅漢の像は二尺六寸高あり  
堂に崇拝せりと稱ふのともあり

本所堅川  
目の南あり



# 辰巳之方日比谷

日比谷  
東の敷寄屋橋法門あり所のまを辰巳  
流を流す所者丁より丁浪座字目あり

日比谷法門の八代海の家  
より流先山内河原田あり

# 飛治橋

飛治橋の東より  
の東より

橋南のまを橋より  
か丁より

丁橋より  
ありと丁目あり



飛治橋



八丁橋  
 八丁橋の南あり  
 橋のよりちあり  
 橋より川あり南へ本橋丁築地へ東へ又橋  
 橋亀橋所水谷丁橋若橋鉄砲洲  
 佃橋石川橋源川永代色

# 本挽所

あつ七丁目まある  
 あり今い様若所ふちう南の河留新地し  
 芝居の南八丁橋  
 鉄砲洲ふる橋丁

是八丁橋の南あり  
 三拾石堀の向側ふ



本挽所  
 芝居  
 古跡



正一位橋若鉄砲洲  
 此社橋若鉄砲洲の橋ありと云  
 南八丁橋より河岸あり鉄砲洲へ  
 南八丁あり定永井上坂富大町の  
 町見ををるる下由名若号といふ

# 築地門

築地本橋丁より  
 東南ふゆる所

橋ありと新築築地門の天のひより  
 東西ふゆるはふちと表の橋と云えは橋時  
 橋の内ふす一明燈火のちとふ後さる  
 未ち九八十八ち築地西橋若橋若



築地  
 門

芝口  
新橋



芝口金杉

芝口の日本橋が  
品川との港邊に

日本橋より中橋南橋の町と丁並系橋  
あり是が銀座字をり丁三丁竹町出雲丁新  
橋が芝口小島と丁より源助丁赤月丁岸井丁字  
岡丁神町丁漢松丁岡合杉橋字本並小島と

漢河敷佃場

漢河敷の  
本橋丁

南ふあり海堤築きより橋の佃場の漢河敷が  
の田圃永代か南ふあり小橋の白魚の佃場と  
志て漢河丁の橋の佃場の漢河敷の佃場と  
の佃場の佃場は佃場とありしは是なり



霞ヶ関



南と霞ヶ関虎河門

河門より南の方をまわれば河門の外は田  
家と河野家の名の坂ありむじは河野家  
街をみく武蔵の名新より虎の河門の  
橋田と霞ヶ関の南をりる芝口本並

江戸見坂

江戸見坂の佃場の  
上野市芝河丁への

坂見大

今川橋の郷土と芝口と芝口の佃場の佃場と  
南ふあり市芝丁赤月本並下野の文保





天徳寺

# 天徳寺

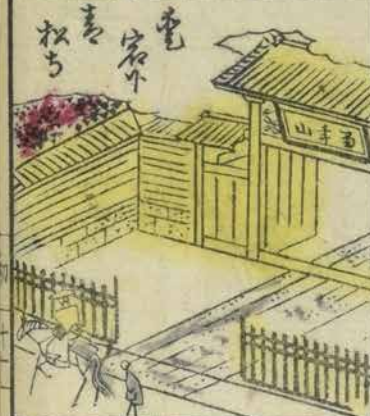
天徳寺の光明山初  
合院と号して系統

智徳院の末裔格武よしちん開山祿  
長上人天文二年景剣と云ち中十七うち  
あり豊忠山の後下西久保をり之山虎の  
馬門西のまゝ坂坂坂寺なりこれ一あり

# 青松寺

青松寺の北西下  
多南の邊より赤

羽根三田より山のまじに掃をり赤の宿  
丁神明あり閑山徳天和尙文明のころ  
景剣元八貝塚よりあり寺号万年堂と  
り青の洞窟に在り寺の一あり



青島寺  
松



愛宕山

# 愛宕

愛宕山の北西下  
坂余赤を又とる遠立の長

十三年東越の愛宕山より石壇亭八幡男坂とのみ  
院内か一方と眺むる芝浦の南帆夕陽の映下  
右の市中眼よりみては市中の冠たる橋地あり  
別當の愛宕山寺後高ちまをり寺の一あり

# 西久保八幡

愛宕山の西南  
の方の町名あり

八幡宮は地の結中にて清水八幡と勤  
徳寺寛弘年中の鎮座と云毎半年八月十日  
放生會あり南力ありが處と雲の院とのふ  
南の方の坂倉赤羽根南より山虎のまゝ



八幡  
境内

金地院



金地院

是の湯とちの後の切  
色の上之画の方の版倉

六本木にある金地院は務林山といふ山の湯  
經中ち領七百石開山と大業和尙といふ元  
來の系於南禪寺の金地院の宿ちあり  
とのみわりの湯城ふありしよ

神明

直の芝口より神明丁  
みありありの湯上言表つ多

存の堂常下一歩は往々務林太神宮と一  
辨分此の神主人室六十六代一条院室迄  
年九月十六日神物室の代ふ社と建例系九  
月十六日廿一日迄の別生基千本若成ありふ

神明



鳥森



鳥森稻荷

社地ハおき下  
その芳田系

に東國發向のとら稻荷は行形あるせしふ  
白杭束のく白杭の束とふ鳥森は是を稻荷と  
傳成し後社を造らせんとま社の示ふあり  
鳥のむらがる所と社地とをな及ふ神号と名

三塚山湯上寺

廣慶院  
と号す

芝標林と名は万石早石人室五代小松の  
院の系系創開山と大蓮社角登上人との  
湯上家の御具金あり神祖と要國教と  
係しなす毎年二月十廿日神祭系湯と評さる



三塚山  
湯上寺



二田  
春日

二田春日

二田の境内にありて  
西南の角にありて  
春日の祭にありて  
大和の國にありて  
二田の境内にありて  
大和の國にありて  
二田の境内にありて  
大和の國にありて

魚籃

魚籃の境内にありて  
春日の祭にありて  
大和の國にありて  
二田の境内にありて  
大和の國にありて  
二田の境内にありて  
大和の國にありて



魚籃  
観音

泉岳寺



泉岳寺の境内にありて  
春日の祭にありて  
大和の國にありて  
二田の境内にありて  
大和の國にありて  
二田の境内にありて  
大和の國にありて

おひき大仏

おひき大仏の境内にありて  
春日の祭にありて  
大和の國にありて  
二田の境内にありて  
大和の國にありて  
二田の境内にありて  
大和の國にありて



おひき  
大仏



二本樓

# 二本樓

海城山品川にありは知事ありて一室塚あり  
 一先年の年回海と今その木ありさ地  
 名とあるのさ南所い下名橋のちあり  
 一室より相換る中大山ちりるあり

# 品川東寺

よりの津海日本橋の二室な海汀漫と一  
 くら悦庵ふるれ右左の品川東寺の橋  
 地界所控観の地と一東寺あり下名橋あり  
 石子堂の流小入さきと今古文みあるあり



品川の園



東海寺

# 東海寺

京大徳寺の派みて岡山は香和南之  
 寛永十二年記とある和南遷化  
 の後天意大泥圓所の号とある  
 院内寺あり右松多し

# 赤坂方水田馬

# 場

赤坂方より赤の方と庵ヶ岡より  
 赤坂方より赤の方と庵ヶ岡より

麴町あり西の赤坂方より赤の方と  
 元永田馬とある武家屋敷ありしは



水田馬場



山王 祭礼



山王御祭

# 山王

山王の神社は神永田の場あり  
何れ日吉山王と日吉の社は

六面石別あり勧修院社あり  
下目向も  
何れ日吉の天社例祭六月十日祭  
東社一の天社あり  
社殿敷くして石の居る下目向の石階あり

# 濁池

濁池は山王の舞臺あり  
東に橋新橋あり

赤坂はつとつき濁くさる大沼あり  
水は月のひかりの影の光りて濁き  
濁池の工あり  
池の底あり



# 日ヶ窪六本木



日ヶ窪は西南へあり  
とあり  
六本木日ヶ窪  
日ヶ窪の  
六本木の  
日ヶ窪の  
六本木の

# 横田長坂

横田長坂  
長坂の  
横田の

長坂は六本木より一本坂あり  
横田の  
長坂の  
横田の



森市一



# 一本松

是日森市の因之名を冠  
の松と人を年次見ふり

け松焼くべ今ありのまほ侍ふ松の香  
を植そんは是より西南へ本村町新堀川  
尾の承ちよが傍同くあふる南のうへ  
吾れも皆松樹を植置守ふり

# 菅束稲荷

是日稲荷  
稲荷の御

へのもちり石法ち休川の待り  
ある但し稲荷子共皆立神明文を別  
法もち稲束稲荷あり祭礼六月廿八日と云は  
まては皆ち稲束といふ稲荷の別なり

菅束稲荷



# 麻布善後寺

麻布  
ハ矢

成徳の系七の内老古名を麻布山と号す  
ち性古の天竺へ用山了海上人親嘗て人の骨を  
まてて向ふ海へ西の傍の派み及び又或古名  
名流生村といふまてて麻布山なり

# 斧橋

は橋まの流川と云大川  
築つて日ヶ産より西のうへ

さくら田町より斧橋の勢あり  
六張五張盛武勢あり  
親王深板一紙後の前月  
経基傳つて斧と産ふ

斧橋



瑞雲寺



# 白浪瑞雲寺

瑞雲寺  
白浪

西の方へ号小長と云ふ丁に又白浪瑞雲寺あり  
ちいば雲山と号く閑山本居和尙寛文年  
中の造りありこの寺に又坂の丁に又白浪  
の兼宗あり不二の胎を以て舟とてま

# 目黒不動

泰康山法泉  
かよ入江と云

不動の二あり目黒武蔵と号するもの天和  
年中と道の左にあり堂法持と云く焼七  
ま不動の具徳網の中より花びか流水の  
下不動と云ふ不動の具徳あり



池上  
ちい

# 池上

山本門と号す一本派寺

願而名開山日蓮上人より入皇九代後  
宇多天皇弘安年中基創りて日蓮  
上人入滅葬送の地あり墓骨ハ甲列  
舟に納むと云

# 申之方赤坂

赤坂の  
赤坂の

豊清初あり赤坂山の外と傳る丁田所又  
丁田あり澤水相島と云く傳る丁二丁の南  
みゆり山あり其の百人丁乃赤坂あり西に元  
田系紋が掲多治や西にまきの坂と云く遠くあり





# 氷川明神

氷川明神の御宇に於ては、  
 神皇正統記に於て、  
 神武天皇御宇に於て、  
 神皇正統記に於て、  
 神皇正統記に於て、

氷川と号くとも、  
 氷川と号くとも、  
 氷川と号くとも、

**茶研坂**  
 喜史の作りたるのさぬ茶研のてらあり  
 坂のふもとにありて、  
 喜史の作りたるのさぬ茶研のてらあり  
 坂のふもとにありて、



**金王様**  
 今丹是に金王様は、  
 今丹是に金王様は、  
 今丹是に金王様は、

# 角有鶴町天神

角の方、  
 角の方、  
 角の方、



桃 園



# 写巻桃園較福

巴ッ着のちみり入 麹町十丁目お東の門をのり  
先外をまて巴ッ着とりの桃園の巴ッ着の末み  
老中師のまを影發桃の較ヶ梅の巴ッ着と  
ま山のあひまひつり川目海しらり

# 権田系大久保

ま山の内多のむじ権田ねあつ園のつとり入  
権田の地多りとま大久保の大宮海ふむむ牛  
以上市は若の権よりつ尾物産外山は屋  
あひのちて成り入



権田系

古伝

# 成方市谷八幡

成の方を存ま市谷八幡の山は八幡の  
日西田町あり別當の東山寺あり  
文明年中建立大永年間云れ不破壊一  
つととる長のは源空馬運再興也



市谷 八幡

# 番町

丁と表表えん乃まふの差がわを東西十  
六丁南小七八丁の場多むり巴ッ着方の成  
家屋敷を揚つりなのおありとの入今由  
番丁とまは成りの中まあり



番町四

番町の古伝

小延  
長屋



小延長屋河田屋

東町早稲田  
市谷尾別荘  
長屋下下町

又延長屋と云  
河田之長屋東町早稲田との  
牛込の内へ移る名をいふありと云

穴八幡

牛込の末富田を塚村小五郎  
引高松山教主と云

昔岡防正八幡社人良易傍於四圍修治  
是く、是ふ事り、是等と信究と一々小延  
究より信究と信究より信究と一々小延  
究八幡と云ふ事り、是等と信究と一々小延



目白不動

有田池



目白不動

目白の不動  
園口の末左

穴八幡の世實ある東豊山新長寺  
とのみかきハ荒沃不動以法大師の化あり  
湯屋山小あわの二懸を彫刻一懸ハ荒沃の  
流みわさめ一懸とハ竹小安垂と云

有田屋

有田屋  
水乃隈分先

多目白より西小延有田屋と号く若  
形如心隅内合殿の子たまの西より  
拵ひせーとのひ伸入のと廣大なる有田  
流瀧なるまとの知中々修好と



梨名所

梅

櫻

山吹

菖蒲

向徳寺 梅名所

白梅 新井村 梅名所  
白梅 新井村 梅名所  
白梅 新井村 梅名所

九段坂の二日葉梅  
九段坂の二日葉梅  
九段坂の二日葉梅

上野山 櫻名所  
上野山 櫻名所  
上野山 櫻名所

赤井山 山吹名所  
赤井山 山吹名所  
赤井山 山吹名所

赤井山 菖蒲名所  
赤井山 菖蒲名所  
赤井山 菖蒲名所

向徳寺 梅名所  
向徳寺 梅名所  
向徳寺 梅名所

友

牡丹

杜若

蓮

萩

赤井山 牡丹名所  
赤井山 牡丹名所  
赤井山 牡丹名所

江戸方面名所杖初編終

紫州

菊

紫

松

松野

菖蒲

紫州 紫州  
紫州 紫州  
紫州 紫州

菊 菊  
菊 菊  
菊 菊

紫 紫  
紫 紫  
紫 紫

松 松  
松 松  
松 松

松野 松野  
松野 松野  
松野 松野

菖蒲 菖蒲  
菖蒲 菖蒲  
菖蒲 菖蒲

東都

書林

中橋東中通

岡田屋嘉七  
和泉屋市兵衛  
山城屋佐兵衛  
山城屋政吉  
須原屋茂兵衛  
出雲寺萬次郎  
和泉屋金右衛門  
須原屋伊藏  
英 屋次兵衛  
森 屋次兵衛  
山口屋藤兵衛  
大和屋喜兵衛

